



英知
誠実
健康

学校だより

若鷹

尾張旭市立旭中学校

令和2年度 3月号

振り返り そして 新年度に向かって

校長 松本浩一

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、昨年3月から始まった突然の全国一斉休校。在校生や来賓の出席をとりやめ、保護者の参加も制限した卒業式や入学式。一斉休校は3か月近くに及びました。学校の新しい生活様式、行事の縮小・延期・変更など、学校生活のあり方や学校行事の数々を見直さざるを得ない1年でした。

そんな令和2年度も終わろうとしています。現在の学年での学習や生活のまとめをしっかりと行い、次の学年につなげていってほしいと思います。

3月3日、305名の卒業生が立派な姿で巣立っていきました。卒業式にむけて、1・2年生が卒業生のために、教室を飾り付けたり、モザイクアートを作ったり、胸花を作って贈ったり、大切な式場をつくり学校中を念入りに掃除したり、本当によくやってくれました。そのどれもが、卒業生へのメッセージであり、しっかり届いていたと思います。

メッセージにはいろいろな形があります。言葉や文字はもちろんですが、言葉や文字でなくても、表情や行動、たたくまいなども、気持ちや心がそこがあれば、力強いメッセージになり、相手やまわりに確実に伝わります。1・2年生は卒業式に出席できませんでしたが、卒業に向かうこの1か月で、そのことを改めて感じました。

皆さんは、先輩から「母校の歴史と伝統」を受け継ぎました。新年度、先輩から受け継いだ「歴史と伝統」を皆さんの努力によって守るとともに、もっと素晴らしいものに磨き上げてほしいと願っています。

卒業していった3年生とともに2年度の総まとめをし、希望に燃える新入生とともに3年度を迎えたいと思います。

保護者や地域の皆様には、今年度も旭中学校の教育にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。



<1・2年生によるモザイクアート>

校庭の桜

まだ朝晩は冷え込むときもあり、登下校時には防寒具が手放せない生徒もいますが、季節はしっかりと春に向かっていきます。

写真は、西昇降口に植えてあるソメイヨシノで、3月15日に西門へ向かうとき開花しているのに気付きました（名古屋地方の開花宣言は17日に出されたようで、観測史上最も早い記録だったそうです）。

しかし陽当たりがよいであろう校舎の南側、運動場側の桜はまだ開花をしていません。運動場側の桜は樹齢も高く、開花のエネルギーをじっくりと蓄えているのかもしれませんが。校長先生は旭中の卒業生なのですが、校長先生が中学校に入学した時には、もう桜は植えてあったそうです。

今までも多くの生徒を迎え、そして見守ってくれていた桜ですが、今年度の夏に大規模



改造工事で校内を整備する中で、樹勢が衰え寿命が近いと判断された中庭の一本を、残念ながら伐根することとなりました。寂しいことですが時は止まることなくいつかは終わりが来てしまいます。

今はない中庭の桜ですが、本校職員の一人が、伐根前に枝を切り取り、挿し木にして次の代に命をつないでいました。写真は挿し木によって若葉をつけた桜の苗です。いつの日か、モザイクアートで描かれたような見事な花を咲かせる日が来ることでしょう。

学級レク日和～公立高校合格発表

3月18日気持ちよく晴れ渡る空の下、5時間目のLTで、多くの学級が運動場や体育館で学級レクを行っていました。

鬼ごっこやドッジボール、生徒たちの歓声が運動場に響くころ、誠心館では、公立高校の合格発表があった生徒が久しぶりに登校し、合格証を受け取りに来ていました。右の写真の卒業生はどんな表情で運動場を眺めていたのでしょうか。中学校の3年間は長いようであつという間です。来年度も引き続き感染症対策をとりつつ学校生活を送らなければならないと思いますが、この日の陽気のように、穏やかな1年となることを祈念して、今年度最後の学校だよりとしたいと思います。

